

私は北大学部1年(教養)での「総合講義 現代物理学入門」の90分1回の講義と、物理学科3年前期の「量子力学演習I」と、そして、物理学科4年の1年間、原子核理論研究室での卒業研究で大西先生からご指導をいただきました。このような薄いご縁で、この追悼文に寄稿する無礼をお許してください。

私は研究者を目指し北大に入学しましたが、優秀な同期たちの姿を見たり、学問の難しさに困惑したりで、学部卒で教育の道に進もうと入学して早々に自分の進路を変更していました。研究室配属では例年人気のある原子核理論研究室が、なぜか私の年だけ空きがあり、私のような研究に志のない者が原子核理論研究室に配属されることになったのです。研究室配属間もなく、大学院に進学せず学部卒業後、教育関係の就職を希望していることを大西先生に伝えたと記憶しています。しかし、大西先生は、冷たく接したり、厳しく当たる訳でもなく、また、特段、優しくしたり、指導に手を抜くようなそぶりを見せず、4年生ゼミの際も劣等生の私の愚かな質問にも真剣に、そして丁寧に答えてくださいました。今から思えば、大いに手加減をさせていただけていたのだと思いますが、私のような異物をも包み込む大西先生の懐の深さのおかげで、とてつもなく恵まれた環境で幸福に過ごすことができた研究室での1年間でした。そして、この1年間の経験は、今でも学習塾講師として働く私の支えとなっています。

2000年6月のある日。北海道大手の学習塾から内定をいただき就職することを大西先生に伝えました。「中高生に授業をするのはまた違った技術が必要だよ。僕はまだ、大学教員歴よりアルバイトでやっていた予備校講師歴の方が長いんだけど、……」と、大西先生が話を始めようとしたところ、近くにいた研究室の方から「大西先生、そこは張り合う所ではありませんから笑」と言われ、そうなの？、と言った感じで肩をすくめる大西先生の姿が今でも私の目に焼き付いています。学部卒で研究室を去る私の職について、大西先生が真剣に話をしてくださることが、ありがたくて、もったいなくて、感謝の気持ちが絶えませんでした。また、年度末の送別会で研究室からいただいた色紙には、「高校生や中学生に理科や物理のおもしろさを伝えてあげてください」という大西先生直筆のメッセージが入っています。大西先生のような偉大な研究者であり偉大な教育者から薫陶を受けたことは私にとって幸運でした。いつか直接、感謝の気持ちを改めてお伝えしなければと思っていたのですが、それも叶わなくなっていました。でも、笑顔の大西先生が私の心の中に現れいつも励ましてくれるのです。研究者でも何でもない一学習塾講師がおこがましいのですが、大西先生からいただいたものを次の世代に継承していきたい、継承していかなければ、という気持ちを強くしています。

石川 真範 (北海道釧路)